

草津市立矢倉小学校通信 令和3年7月19日 NO.7



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## 夏が来る

職員室前の掲示板を担当する先生が、「夏が来る」と題して、子どもたちの描いた夏にまつわる掲示物を飾ってくださった。「スイカ」「メロン」「かき氷」などといった夏ならではの食べ物や、「海水浴」「虫取り」などのお楽しみの絵だ。夏らしい夏が来てほしいな…そんな心持ちになってくる。

帰宅途中に立ち寄った近所のスーパーに旅行案内のチラシがあった。「大人贅沢な旅」「すこし贅沢な旅」の言葉がおどっている。この夏はさすがに無理だろう…と横目で見ながら、歩を進めていくと、今度は「贅沢搾り」というアルコール飲料が行儀よく並んでいるのが目に飛び込んできた。ひょっとして今季のキーワードは「贅沢」なのだろうか。

商品を前に、贅沢ということをあらためて問い直してみた。

「贅」は贅肉のように「余分なもの」「むだ」という意味合いを多分に含んでいるのではないかと。これを裏付けようとスマホの辞書をひもとく。そこには贅の一字が「むだ」とも読ませるようになっていたものだからおもわず笑ってしまった。次に「沢」。これは「さわ」とも読む。そこから「うるおい」だとか「めぐみ」のような意味合いが感じられ、辞書にも確かに「めぐみ」とあった。ということは、「贅沢」とは「無駄なめぐみ？」ということになる。とはいうものの、自分の場合、「贅沢なことだ」というとき、そこには、もったいないという、どこかうしろめたいような気もちがあり、さらに、心のどこかで、それでも自分に与えられたありがたさ、かたじけなさを感じさせてもくれている。

ふと、店内でニヤリとしたり、じっと考え込んだりと、不審な行動をとっている自分に気づく。とたんにその場から一刻も早く立ち去りたくなり、買わなくてもよいはずのその飲料を手にして当たり前顔をしてレジに並んだ。

それにしても、以前のような夏らしい夏はほんとうにくるのだろうか。もちろん、暑くなればなっただ、きっと私はうなっているだろう。「なんでこんなに暑いんだ!?!」と。しかし、その一方で、子どもたちには、夏らしい夏の経験、夏休みの楽しい思い出がそれぞれに与えられますようにと、願いをかけている。どこかへ出かけるとか、イベントをするとか、特別なことはなくてもよい。東京オリンピックも今となっては、お祭り騒ぎをするわけにもいかない、そんなイベントだ。みんなが、ただただ心底、自然体で過ごせる、ふつうの暑い夏になりますように。

校長 大林道範